

平成29年度高松市美術館特別展

高松市美術館コレクション+ ^{プラス} 木村忠太とこぼれる光のなかで

The Collection of the Takamatsu Art Museum + [PLUS]

In Spilling Light with Chuta Kimura

2018年2月17日(土)～3月25日(日)[32日間] 休館日=月曜日



木村忠太《ガラス郊外》1975 高松市美術館蔵

木村忠太／イケムラレイコ／石田尚志／大岩オスカル／O JUN／岡田修二／小川信治
小川百合／加納光於／工藤哲巳／小林孝亘／杉本博司／曾谷朝絵／堂本尚郎／流麻二果
日高理恵子／丸山直文／横内賢太郎／藏本秀彦／近藤亜樹

木村生誕100年及び没後30年を記念し、当館のコレクションから、木村はじめ「光」をモチーフにした作品を約60点厳選し、現代を生きる美術家たちの「光をめぐる冒険」を紹介。

なお、特別展示として、曾谷朝絵の映像インスタレーション、藏本秀彦(香川出身)の絵画や近藤亜樹(小豆島在住)の映画も展示予定。

◎**開展式**=2月17日(土) 10:00～／2階展示室前 *参加：曾谷朝絵、藏本秀彦(予定)

展覧会に関するお問合せ及び資料のご請求先

[展覧会担当] 毛利 直子 e-mail:naoko_5570@city.takamatsu.lg.jp

[展覧会・広報担当] 尾形絵里子 e-mail:eriko_10527@city.takamatsu.lg.jp

[展覧会・広報担当] 川染奈緒 e-mail:a160253@city.takamatsu.lg.jp

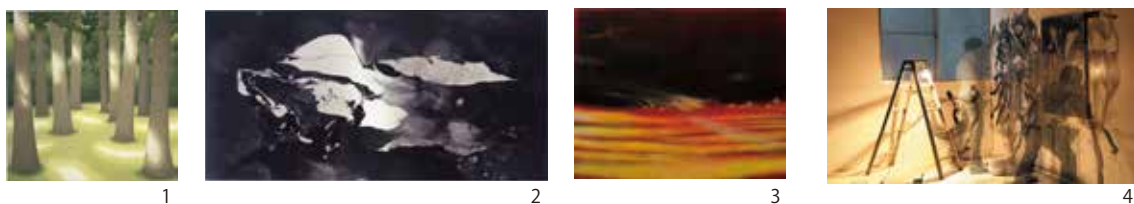
高松市美術館 〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel: 087-823-1711 Fax: 087-851-7250

[主旨]

今から60年ほど前の1953(昭和28)年のこと。高松出身の画家木村忠太(1917-87)は、オランダ船で横浜を出港し、2ヶ月かけてマルセイユに到着するとパリに居を定めました。以来亡くなる1987(昭和62)年までフランスに留まり、光を探求し続け制作に打ちこみました。「光」への木村のこだわりは、抽象(アブストラクト)絵画の趨勢のなかであって、孤高な挑戦に映ったかもしれません。しかし、「内なる光」を生み出した木村忠太の一生は今もって、絵画や光に対する深遠なる問いを発し続けているとも言えます。

さて、本展覧会で紹介する作家たちは、木村と同じくフランスに渡った堂本尚郎(1928-2013)や工藤哲巳(1935-90)、そして加納光於(1933-)以外は、みな戦後生まれです。日系2世としてサンパウロに生まれた大岩オスカールのほか、イケムラレイコ(ドイツ)、杉本博司(ニューヨーク)など、活動の拠点も様々であり、世代的にも木村と接点のある者はいません。しかし、ご覧いただく作品それぞれに、木村の言う「混迷を破るもの」として美術のあり方や可能性を感じることができます。水と光がゆらめく曾谷朝絵の絵画、石田尚志の差し込む光に委ねた絵画行為の痕跡など、現代を生きる作家たちの光をめぐる冒険があります。それらはまばゆい光というよりも、こぼれていくような有機的な光であり、揺らぐ映像のように私たちの身体感覚をゆるやかに満たしてくれるでしょう。

また、香川県在住の藏本秀彦が描く、東日本大震災以降、テーマに掲げる「FUKUSHIMA」の新シリーズ《それでも木漏れ日は》や、同じく東日本大震災が制作のモチーフとなった近藤亜樹監督・脚本による映画《HIKARI》、そして展示室一面を覆う曾谷朝絵の映像インスタレーションなど、ゲスト作家による魅力的な展示が広がります。



1. 小林孝亘《Forest》2001 高松市美術館蔵 ©Takanabu Kobayashi, Courtesy of Nishimura Gallery
2. 岡田修二《水辺 33》2006 高松市美術館蔵
3. イケムラレイコ《Pacific Red》2006 高松市美術館蔵
4. 石田尚志《3つの部屋 - 無音の部屋または暗くなる部屋》2010 高松市美術館蔵 ©Takashi Ishida

[概要]

展覧会名：高松市美術館コレクション^{プラス} 木村忠太とこぼれる光のなかで

The Collection of the Takamatsu Art Museum +^[PLUS]

Spilling Light with Chuta Kimura

会期：2018年2月17日(土)～3月25日(日)[32日間] ※休館日＝月曜日

開館時間：9:30～19:00(日曜日 9:30～17:00) 入室は閉館30分前まで

*開展式：平成30年2月17日(土)10:00～／2階展示室前

会場：高松市美術館 2階一般展示室・企画展示室ほか

主催：高松市美術館

助成：公益財団法人 朝日新聞文化財団

協力：西村画廊、ShugoArts、香川県立高松工芸高等学校美術科

観覧料：一般 800円(640円)、大学生 500円(400円)、高校生以下無料

* ()内は前売及び20名以上の団体料金。

* 前売券は、高松市美術館1階受付、高松市役所生協、ゆめタウン高松サービスカウンター、宮脇書店本店および南本店にて、2月16日(金)まで販売。

* 身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料。

[関連イベント]

アーティスト・トーク

2月17日(土) 11:00～12:00(開場10:30) 出演：曾谷朝絵、藏本秀彦

1階講堂／先着80人／無料

内容：ゲスト作家の二人が、自身の創作や今回の展示などについて、お話しします。

ワークショップ

・曾谷朝絵ワークショップ

「MIZUNOWA ミズノワから花開くヒトノワ」

2月17日(土) ①13:30～14:30 ②14:45～15:45

中2階ロビー／500円(別途材料費500円程度)

対象：未就学児～大人(未就学児は保護者同伴)／先着各25人(2月1日8:30～電話申込)

内容：制作途中で規格外の混色になってしまった色とりどりのEVAシートを活用し、ランチョンマットやピクニックシートを作ります。

・近藤亜樹ワークショップ「光の絵」

2月25日(日) 13:30～15:30

中2階ロビー／500円

対象：小学生10人、中学生～大人10人／(2月1日8:30～電話申込)

内容：東日本大震災による喪失体験から、作品『HIKARI』を制作した近藤亜樹さんを講師に、「光の絵」を描きます。制作した作品は、中2階ロビーに展示します。

・藏本秀彦ワークショップ

「木漏れ日の飛び出すカードを作ろう」

3月21日(水・祝) 13:00～16:00

3階講座室／500円(別途材料費300円)

対象：小学生以上(小学3年生以下は保護者同伴)／先着20人(3月1日8:30～電話申込)

内容：コンテパステルの柔らかなタッチで描いた木の飛び出すカードを作ります。

・アートで遊ぼう！(子ども鑑賞プログラム)

3月3日(土) 9:30～11:00

3階講座室・2階展示室／無料／対象：小学生／先着15人(要電話申込／受付中)

内容：カメラを持って「こぼれる光」を探しに行こう。

・松尾由美(芸術士)による子どものアトリエ「色であそぼう！」

3月24日(土) 10:00～12:00／3階講座室／500円(別途材料費300円)

対象：未就学児～小学生／先着20人(3月1日8:30～電話申込)

内容：ペインティングナイフを使って、2L判の油絵を描きます。

ミニコンサート

3月17日(土) 13:30～14:00

1階講堂／予約不要・無料／演奏者：加島華奈子(ピアノ)と近藤杏紗(フルート)

ギャラリートーク(展示解説)

学芸員：2月24日(土)、3月10日(土)各14:00

ボランティア：会期中の日曜日及び祝日 11:00、14:00

いずれも2階展示室／要観覧券

友の会スペシャル・イベント「藏本秀彦トーク」

3月24日(土) 11:00～12:00

講師：藏本秀彦／1階講堂／先着50人／無料

(要電話申込 友の会会員：3月1日8:30～3月10日／一般：3月11日8:30～)

[広報画像]

*使用ご希望の際は、掲載媒体(発行日、放送日時も)、図版番号等をメール等でお知らせください。

所蔵作家

木村忠太 / Chuta Kimura



5

1917年香川県高松市生まれ。1936年上京し、二科洋画研究所に通い、翌37年「独立美術協会展」に初入選後、48年には同協会会員となる。53年夫人とともに渡仏し、翌年にはアール・ヴィヴァン画廊、65年にはクリエゲル画廊と契約。80年パリの現代美術国際フェア(FIAC)により名声は日本にも轟く。85年フィリップス・コレクション美術館(ワシントン)及びブルース・シーゲル画廊(ニューヨーク)の個展で好評を博す。自らを「魂の印象派」と称し画業に専心し、87年パリで逝去。

イケムラレイコ / Leiko Ikemura

石田尚志 / Takashi Ishida

大岩オスカル / Oscar Oiwa

O JUN / O JUN

岡田修二 / Shuji Okada

小川信治 / Shinji Ogawa

小川百合 / Yuri Ogawa

加納光於 / Mitsuo Kano

工藤哲巳 / Tetsumi Kudo

小林孝亘 / Takanobu Kobayashi

杉本博司 / Hiroshi Sugimoto

曾谷朝絵 / Asae Soya

堂本尚郎 / Hisao Domoto

流麻二果 / Manika Nagare

日高理恵子 / Rieko Hidaka

丸山直文 / Naofumi Maruyama

横内賢太郎 / Kentaro Yokouchi

ゲスト作家

曾谷朝絵 / Asae Soya



6

1974年神奈川県生まれ。2006年東京藝術大学大学院美術研究科博士課程油画専攻修了。1999年バスタブや洗面台によって喚起される身体的、生理的な感覚を描いた「bathtub」シリーズを発表。02年VOCA賞受賞。10年より彩色したビニールシート等を空間に張りめぐらせるインスタレーションを展開。13年「曾谷朝絵展 宙色」(水戸芸術館)開催。最近では野外でも映像インスタレーション《宙》を展開するなど挑戦が目覚ましい。

藏本秀彦 / Hidehiko Kuramoto



7

1965年香川県生まれ。1989年筑波大学大学院芸術研究科修士課程修了。主な個展は93年コバヤシ画廊(東京)、2007年「Rust planet」(gallery ARTE、丸亀)、10年「時の原っぱ」(MIMOCA)。主なグループ展は98年「VOCA展」(上野の森美術館)、2016年「藏本利彦+藏本秀彦絵画展」(坂出市民美術館)、17年「クロスポイント」(香川県立ミュージアム)など。最近では「3・11を風化させない」という強い思いから《それでも木漏れ日は》シリーズを手掛けている。

近藤亜樹 / Aki Kondo



8

1987年北海道生まれ。東北芸術工科大学大学院に在学中に東日本大震災を経験し、震災をテーマとした作品を制作。2017年は台湾でのレジデンスによる初個展(TKG+Projects)。来年は「絵画の現在」(府中市美術館)に参加。今回は、2014年に1年間制作を中断し、実写と油彩アニメを組み合わせた映画《HIKARI》を出品展示。現在香川県在住。

5. 木村忠太《モンパルナス大通り》1966 高松市美術館蔵

6. 曾谷朝絵《bathtub no.15》高松市美術館蔵

7. 藏本秀彦《それでも木漏れ日は》2011 - 2017 作家蔵

8. 近藤亜樹《HIKARI3-2》(映画HIKARI原画)2014 作家蔵

© Aki Kondo, Courtesy of ShugoArts